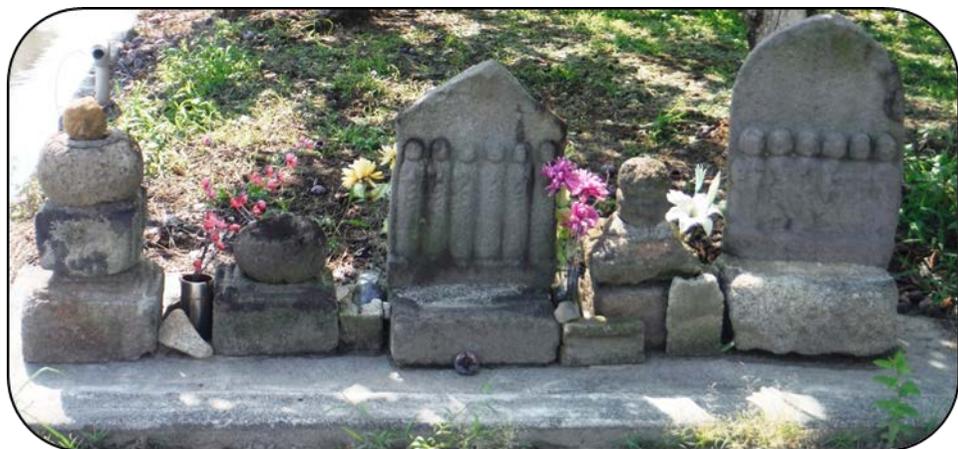


てくてく
古道を歩こう

いちかわみち
市川道

石和編



**笛吹市教育委員会
文化財課主催**



散策コース



★スタート・・・市民窓口館

- 1・観音寺（かんのんじ）
- 2・石和陣屋跡（いさわじんやあと）
- 3・神明神社（しんめいじんじや）
- 4・元正院（がんしょういん）
～道祖神～
- 5・四日市場の道標
- 6・須田家住宅
- 7・馬場の石造物群
- 8・清流公園 ※トイレあり
- 9・道祖神・馬頭観音
- 10・広瀬の石造物群
～道祖神～
- 11・八王子神社
- 12・恵法寺（えほうじ）
～道祖神群～
- 13・諏訪神社

★ゴール・・・市民窓口館



※トイレがスタートの市民窓口館と、中間の清流公園にしかありません。

市川道（いちかわみち）

市川大門は武田信玄が活躍した戦国時代から宿場町として栄えた町で、甲斐源氏発祥の地とも言われています。古くから和紙の生産が盛んで、今に続く和紙の里にもなっています。現在も市川大門産の障子紙は全国シェアの40%を占めています。美人の肌のように美しい事からその名が付いた「肌吉紙（はだよしがみ）」は戦国時代から江戸時代にかけて保護されてきました。その紙漉の中心は「本衆」または「肌吉衆」と呼ばれ、名字帯刀と諸役免除を許された特権集団でした。「本衆」を中心に漉き手の家は250軒にも及んだと言われています。

市川大門は「花火のまち」としても有名ですが、元禄～享保年間ころ紙工・甚左衛門の命日に打ち上げられた事に始まると言われています。現在では、三河吉田・常陸水戸とともに日本三大花火の一つに数えられるほどに成長しました。

市川大門宿は駿州往還のほか中道往還へ通じる脇道もあり、交通の要であると共に周辺地域の商業的中心地でした。甲府盆地各地から市川大門へ向かう道は「市川道」と呼ばれ、①石和からの道②八代からの道③芦川からの道④西郡からの道⑤竜王からの道がありました。



市川に住んでいる人は
いったい何てよんでいた
道なのだろうか？

2.石和陣屋跡

「陣屋」とは、江戸時代の徳川幕府直轄領の代官の住居及び役所が置かれた建物、あるいは3万石以下の城を持たない大名の藩庁が置かれた屋敷のことです。石和陣屋は、寛文元年（1661）に三代将軍・徳川家光の二男綱重が甲府城主として笛吹川以西の甲斐国を領したのに伴い、残った幕府領を支配するために平岡良辰に命じて陣屋を築かせたのに始まります。宝永元年（1704）、甲斐国国中三郡は柳沢吉保の領地となりますが、享保9年（1724）に柳沢氏は大和郡山へ転封となり甲斐国は全体が幕府直轄領となります。幕府は甲斐国内を治めるため3人の代官を任命し、その代官所の一つが石和陣屋に置かれました。天保13年（1842）、八代郡小城村（旧一宮町）にあった由学館という学問所を陣屋の脇に移します。石和陣屋は幕末まで存続しますが、明治元年（1868）に廃止となりました。当時の陣屋門は明治7年（1874）に払い下げられ、近くの八田御朱印屋敷の表門として移築されています。現在では陣屋の跡地は近代的な石和南小学校になり、校門前には陣屋跡を示す石碑が残されています。



3.神明神社

神明神社は天照皇大神(アマテラスオオミカミ)を祭神とし、伊勢神宮を総本社とする神社です。窪中島の神明神社は、弁恭天皇8年に勧請されたと伝えられています。

鎌倉時代頃に書かれた『神鳳鈔(じんぼうしょう)』という書物には当時伊勢神宮が持っていた領地の一覧がありますが、その中に「甲斐国 石禾御厨(いさわみくりや) 250 町」という記載があります。御厨とは神社の所領を意味し、有力な貴族や寺院の領地である「荘園」と同じような私有地でした。御厨内に領主である神社の祭神が勧請されることが多いので、神明神社の周辺に石禾御厨が広がっていたものと考えられます。

かつては神明神社の前を石和川という川が流れ、木々が繁茂しうっそうとしてそうです。そのため

“石禾川森の木かげのくらければ
ひるも篝をたく鶺鴒船かな”
という歌が伝わっています。

鳥居は高さ5.2mの両部鳥居で、ケヤキ材を用いた木製の鳥居です。



4.福寿山元正院

元正院は曹洞宗の寺院で、永正5年（1508）に創建されました。境内には山門と本堂・庫裏などの建物があります。山門は薬医門という形式で、門前の両脇には、三界万霊塔が建てられています。

境内の一画には、「秋葉三尺坊大権現」を祀ったお堂があります。



いろいろな道祖神に注目！

道祖神とは路傍の神で、集落の境や村の中心、村内と村外の境界や道の辻、三叉路などに主に丸石や石碑、石造物の形態で祀られる神様です。皆さんの身近な場所にもあると思います！



5. 四日市場の どうひょう 道標

道標とは漢字の通り
“みちしるべ”です。

この道標には

「右は市川道、左は佐久道」と記してあります。この角を右に曲がると市川大門方面に行ける事を示しています。

この道標には「南無地藏菩薩」と彫られていますが、ほかにも色々な形があります



6. 須田家住宅

昭和 2 年ごろに建築された洋館の住宅です。平成 10 年 9 月 2 日に国の有形文化財に登録されました。

木造 2 階建て、瓦葺、建築面積 91 ㎡



1 階を下見板貼り、2 階をドイツ壁としてハーフティンバー風の洋館で、水害を考慮して基礎を地盤より 120cm 程の高さにしている点に特徴があるよ。装飾的な避雷針や室内の漆喰しりふなど、施主の洋館に対する思い入れが強く込められているね！



7. 広瀬の石造物群 1



畑の中にありますが、良く見ると六地藏
2体、馬頭観音が2体、地藏が2体と髭題
目の計7体あります。

ひげ だいもく

髭 題目 とは・・・？

「南無妙法蓮華經」の七文字を「題目」と
言います。南無妙法蓮華經を紙や石に書く
時に、一画一画をヒゲのようにはねて書い
たものを「髭題目」と呼びます。

これを刻んだ題目塔を『髭題目塔』とい
います。日蓮宗のお寺があるところにはよ
く立っています。

写真一番右奥の文字が髭の
ようにはねているかよく見て
ください。



寺や墓地の入口には「万霊塔」もよく見かけます。

「髭題目」は日蓮宗のお寺の入口によく見られますが、お寺や墓地には「(三界)万霊塔(等)」という石造物もよく見られます。これは三つの世界すべての精霊に対して供養することを表しています。

三界というのは、仏教で言う「欲界(よくかい)」、「色界(しきかい)」、「無色界(むしきかい)」の三つの世界です。

三界の「界」は「層」という意味もあり、三界は三つの階層ともいえます。

最下層の欲界は、淫欲・食欲・睡眠欲など、本能的な欲望に支配される世界です。細分化すると20～36階層に分けられますが、下は8つの地獄(八大地獄)、上は6つの欲天(六欲天)で、人間界が属する四代州はその中間に位置します。

色界は、欲界の上にあります。色とは形あるもののことで、欲望から離れ、物質的なものすべてが清浄である世界です。

無色界は、色界のさらに上にあり、物質的な束縛を超越し、受(感覚・知覚)、想(概念・構成)、行(意思・記憶)、識(純粹意識)という精神的な要素だけから構成される高度な世界です。

人間を含めたあらゆる生き物は生死を繰り返しながらこの三つの世界を輪廻(りんね)します。この三界の輪廻を乗り越え、解脱(げだつ)したのが仏陀です。

万霊塔はその名のとおり、宗派に関係なく、もろもろの霊を供養するために造られた塔です。寺や墓地が現世とは違う異界であるという考えから、その境界に立てられたものとも言われています。

8.石和町清流公園

石和町清流公園は、笛吹市スコレーセンターに隣接する公園です。

柔道場、剣道場、弓道場(近的場・遠的場)、相撲場を備えた武道館があり、スポーツ施設が充実しており、市主催の大会をはじめ多くの大会の会場として利用されています。

また、小さなお子様も遊べる浅めのじゃぶじゃぶ池や遊具、休憩の出来る東屋があり、ちょっとしたお散歩コースにもおすすめの場所です。

MEMO

9. 広瀬の馬頭観音・道祖神



頭部に注目です！

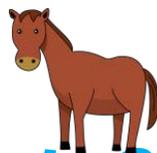
馬頭観音は観音菩薩の化身の一つで、六観音の一つとされます。

この馬頭観音は、柔らかな表情の観音様の頭に馬の頭飾りをつけています。

忿怒相（ふんぬそう）をもち、人身で、頭が馬のものもあります。



ほとうかんのん
馬頭観音



を知っていますか？

頭上に馬の頭を持ち、忿怒（ふんぬ）の形相をしている馬頭観音は、馬頭大士、馬頭明王、大力持明王、馬頭金剛明王などとも呼ばれており、六観音（あるいは七観音）のひとつに数えられるとともに、八大明王のなかのひとつにもなっています。

頭にある馬頭は、古代インドの理想的な王とされる馬輪王の宝馬が、四方を駆けまわって威服するよう、衆生を悩まず四魔をしたがわる威力をあらわしており、悟りを求めるのに重いうと、罪業を食いつくしてしまいうという意味があるといわれています。

しかし、この馬頭観音が石造物として造られた目的の多くは、頭にある馬頭からの連想によって、生活していくうえで無病息大切な働き手でもあった馬の供養や無病息災を祈り願うためであったようです。

そして、時代が下ってくるにつれて、死んだ馬の供養のために造立され、いわば墓標のような意味を持つようになりました。このことから、馬頭観音は、馬に関係のある仕事にたずさわる人たちの講集や馬を飼っている家を中心に信仰されてきました。

石像は、頭上に一匹の馬をのせた独尊と刻まれているのが普通で、自然石あるいは人工石に「馬頭観音」「馬頭観世音」「馬頭観世音菩薩」などと文字だけを刻んだものもありますが、これは一般に比較的新しい時代のものです。

10. 広瀬の石造物群 2

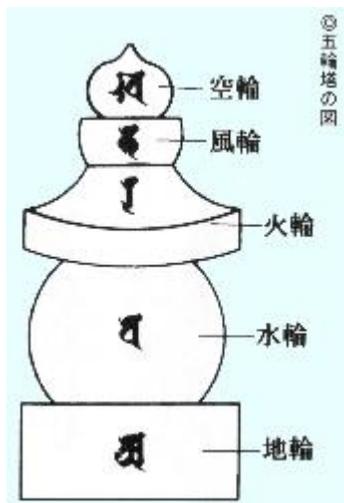
六地藏 2体、他に五輪塔のような石造物が 2体。丸石が 1体あるます。



MEMO



五輪塔って何だろう？



五輪塔（ごりんとう）は、主に供養塔・墓塔として使われる仏塔の一種です。五輪卒塔婆、五輪解脱とも呼ばれています。一説に五輪塔の形はインドが発祥といわれ、本来舍利（遺骨）を入れる容器として使われていたといわれていますが、インドや中国、朝鮮に遺物は存在していません。日本では平安時代末期から供養塔、供養墓として多く見られるようになりました。このため現在では経典の記述に基づき日本で考案されたものとの考えが有力です。教理の上では、方形の地輪、円形の水輪、三角の火輪、半月型の風輪、宝珠あるいは団子形の空輪からなり、仏教で言う地水火風空の五大元素を表しています。石造では平安後期以来日本石塔の主流として流行しました。本来、密教系の塔で、各輪の四方に梵字を表したものがあります。しかし早くから宗派を超えて用いられました。石造のものは石造美術の一分野として重要な位置を占めます。

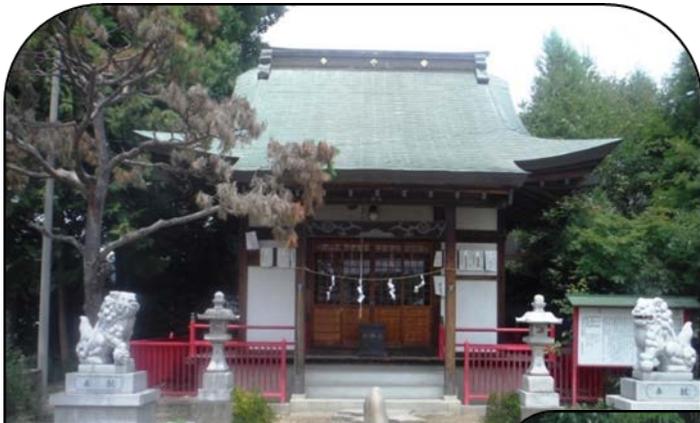


八王子神社



八王子神社は、古くから広瀬村の氏神として鎮座しています。武田家累代の祈願所として永禄4年(1561)に太刀の奉納があったと伝わっています。しかし、天和2年(1682)神主家の火災により社記文献等悉く焼失してしまいました。

祭神は大己貴命(オホミチノミコト)を主神とし、国狭槌命(クニサツチノミコト)、少彦名命(スクヒナノミコト)五男三女神です。「八王子」という社名は仏教の守護神である牛頭天王(ごずてんのう)の8人の子で、八つの方位の守り神に由来しますが、明治の神仏分離以降、五男三女神に替えられたと考えられます。



真光山恵法寺

恵法寺は、室町時代後期に身延山に深く帰依した恵月院日真尼が開山したお寺です。

日真尼は、武田信玄の側近だった駒井高白斎政武の妻、あるいは娘と言われています。

日真尼は、始め薬師如来を信仰していましたが、やがて身延山の七面天女を信仰するようになり、女性としては初めて七面天女を勧請して祀りました。永禄 11 年（1568）日宝上人を住職に迎えましたが上人自らは 2 世となり、日真尼を開山上人としました。

日真尼は、念願であった七面堂を元亀元年（1570）10月に建立し、天正 8 年（1580）10月 1 日、82 才の生涯を閉じました。

江戸時代に入って、安永 5 年（1776）、石和代官だった久保平三郎勝峰は娘の逝去に際し恵法寺を菩提寺と定め、本堂建築資金を寄附。本堂と庫裡客殿を建立しました。

文化 3 年（1806）には厄除祖師像泰安。以来、厄除けの寺として更に鬼子母神・大黒天・身延願満稻荷分社・毘沙門天が安置され、多くの信仰を集めました。

明治 40 年（1907）8 月の大水害で本堂以外の堂舎が流出。昭和 23 年（1948）以降、復興整備を行い、今では、甲斐石和温泉七福神の第 4 番霊場、石和の毘沙門天、水琴窟の寺、草木・花の寺として親しまれています。

庭園には石造宝船七福神を分身として祀り、七福神御堂内には木造毘沙門天坐像を御本尊として安置しています。

～七福神回文歌～

ながきよのとおのねぶりのみなめざめ
なみのりふねのおとのよきかな

《永き世の遠の眠りの皆目覚め
波乗り船の音の良きかな》

※後ろから読んでも意味が同じ文を回文歌という

七福神が乗っている宝物を積み込んだ帆船（宝船）には上記の回文歌が書かれることが多く、正月の2日にその絵を枕の下に入れて寝ると良い初夢を見ることができると言われている

～石和町温泉七福神紹介～

恵法寺	毘沙門天
常德寺	恵比寿神
大蔵経寺	福祿寿尊
常在寺	布袋尊
蓮朝寺	弁財天
仏陀禅寺	寿老尊
遠妙寺	大黒天



石和町のこの七ヶ所のお寺では、七福神巡りの参拝者が、元旦からの10日間で約3000人訪れています。



諏訪神社

所在地：石和町四日市場 2325

御祭神：武御名方命(タケミカタノミコト)

縁起：由緒不詳

社殿：本殿 9尺-9尺 拝殿 5間-3間半

祭日：4月15日、1月15日

御祭神は春「そば」と煙火を忌みきらうといわれている。

末社に天照皇大神 金比羅大権現 石尊大権現 小剣神社を祀る。



MEMO



MEMO





市川道は市川大門への諸道です。

- 1 石和からの道
- 2 八代からの道
- 3 芦川沿いの道
- 4 西郡からの道（市外）
- 5 竜王方面からの道（市外）

と5つの方面からあります。

機会がありましたら、ほかも歩いてみてください。



てくてく古道を歩こう

市川道（石和編）

笛吹市教育委員会
文化財課

TEL 055-261-3342

END

